

いばらきネットモニター 食の安全に関する調査結果

1 調査目的

このアンケートは、食の安全・安心を揺るがす事件等の発生が後を絶たない中、より実効性のある施策を展開する必要があるため、県民が抱く食の安全に対する感想及び県に期待する対応策を把握し、今後の県の施策への参考とするために実施しました。

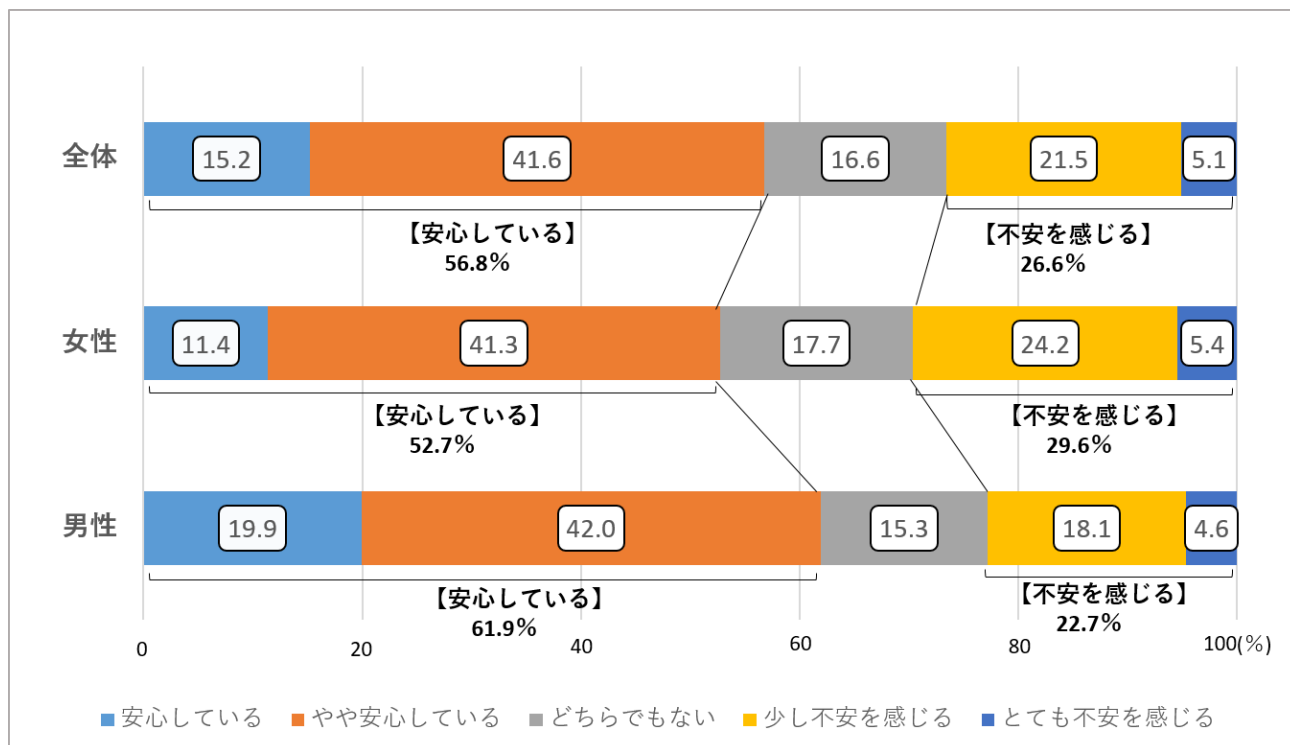
2 結果の概要

- ・食の安全に対して「安心している」、「やや安心している」という意見が「とても不安を感じる」、「少し不安を感じる」より多い結果となった。
- ・食の安全に関する関心事として約6割の方が「食品添加物」と回答し、最も関心が高い結果となった。次いで「偽装表示」、「輸入食品」、「野菜等に残留する農薬」に関する回答が多かった。
- ・県に望む食の安全対策としては、「輸入食品の安全性の確保」が約5割と最も多く、「食品の検査強化」、「農薬の使用や残留に関する農産物の安全性の確保」が続いた。
- ・県における食品に関する検査強化項目の希望に対して、「食品中に残留する農薬の検査」が最も多く、次点の「食中毒等の細菌に関する検査」を合わせると、全体の半数以上を占めた。

【問1】

あなたは、食の安全について、どのように感じていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(n = 632)



○食の安全に関して、「安心している」(15.2%)と「やや安心している」(41.6%)を合わせた【安心している】は56.8%であった。

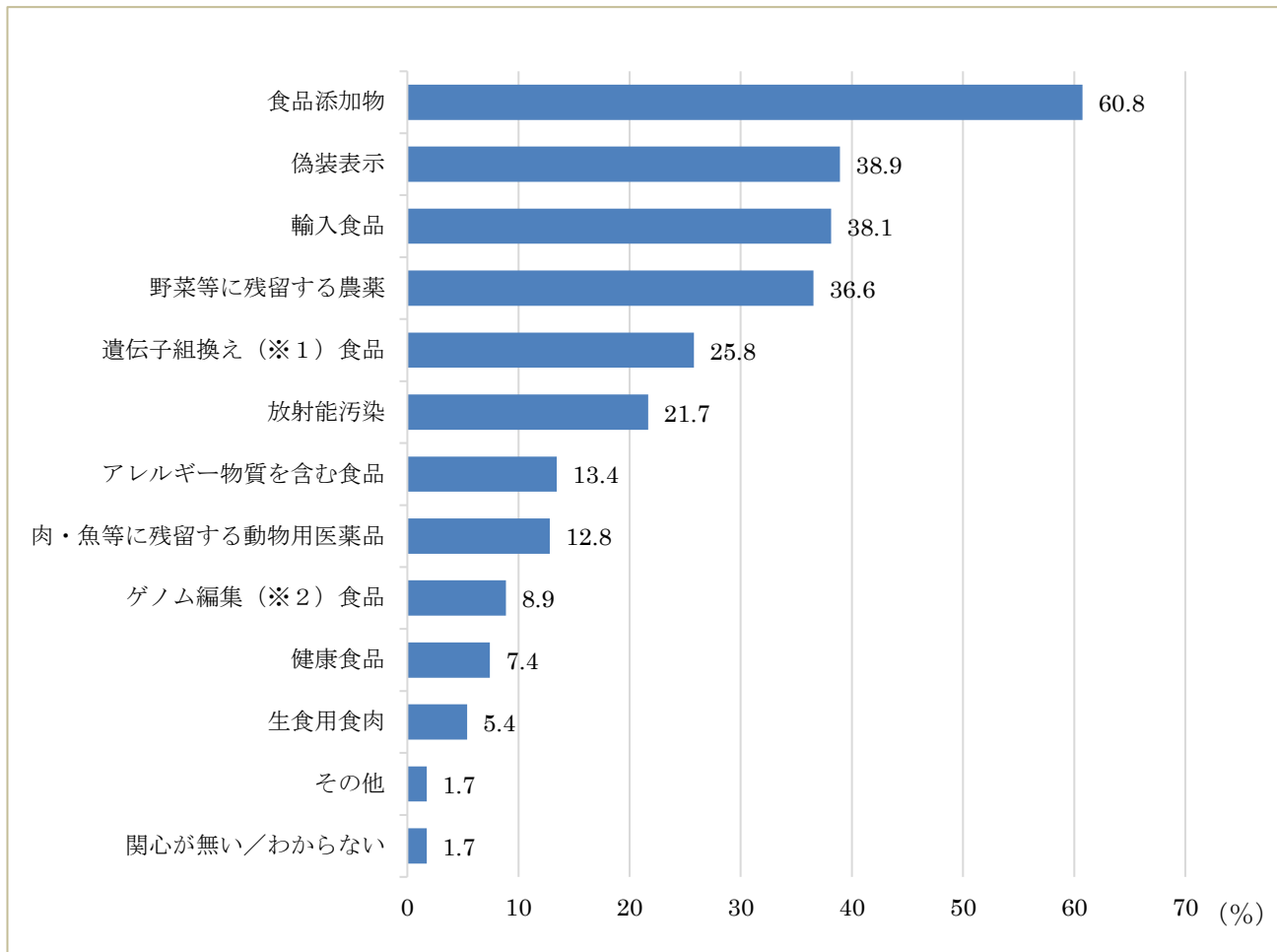
○一方、「少し不安を感じる」(21.5%)と「とても不安を感じる」(5.1%)を合わせた【不安を感じる】は26.6%であった。なお、「どちらでもない」と回答したのは16.6%だった。

○性別で比較すると、女性で【安心している】割合(52.7%)が、男性(61.9%)より低かった。

【問2】

あなたが、食の安全性の観点から、関心があるものは何ですか。次の中から当てはまるものを最大3つまで選んでください。

(n=632)



(※1) 別の生物から取り出した遺伝子を、その性質を持たせたい植物等の遺伝子に組み込む技術

(※2) 既存の遺伝子の欠失や塩基配列の置換など、遺伝子の情報を意図的に変える技術

○食の安全について、関心のある項目を聞いたところ、「食品添加物」(60.8%) が最も高く、次いで、「偽装表示」(38.9%)、「輸入食品」(38.1%) の順であった。

○「その他」として、次のような意見が挙げられた。

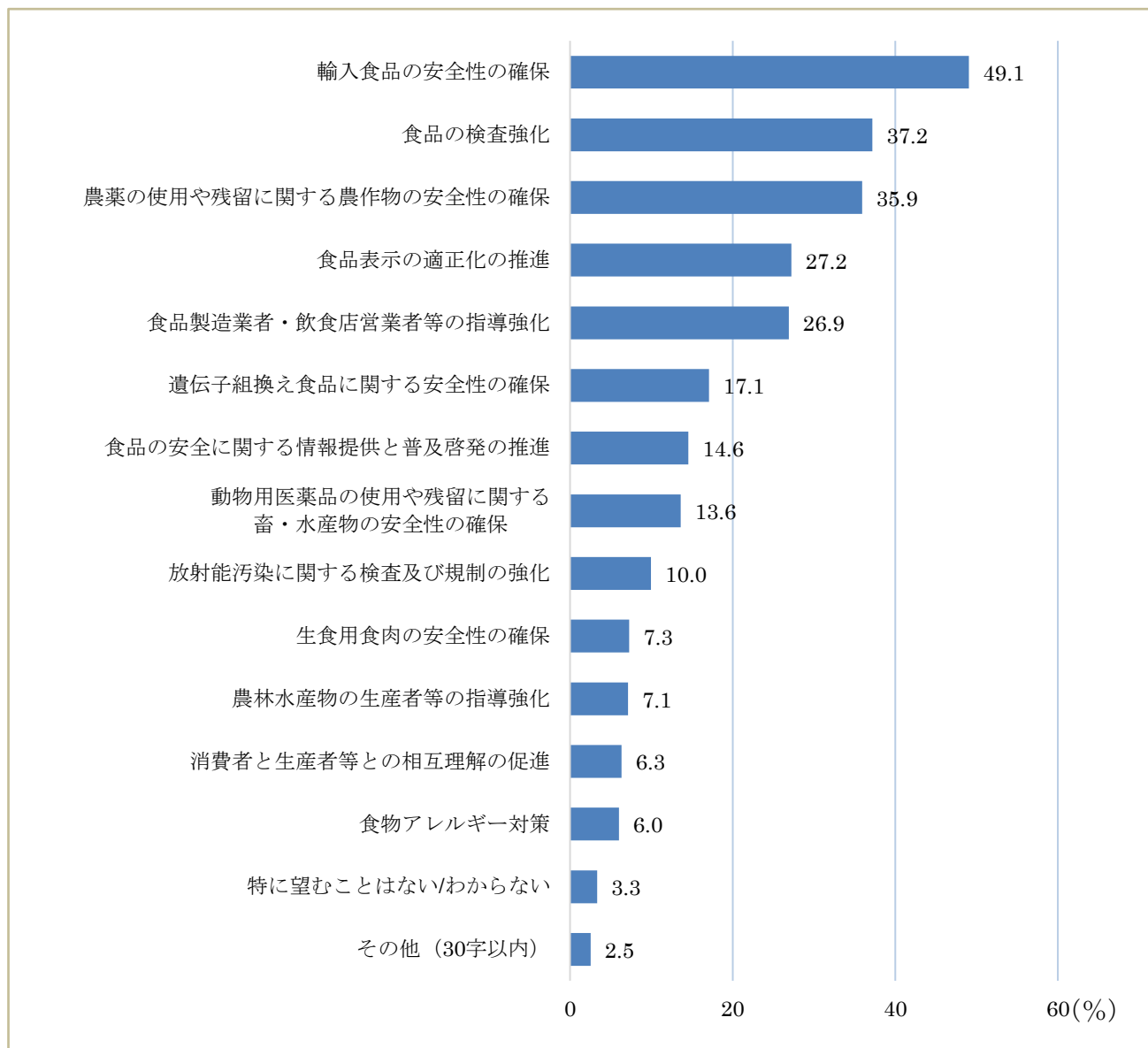
- ・食中毒
- ・無農薬・有機農法の安全性
- ・マイクロプラスチック

などの 11 件のご意見がありました。

【問3】

あなたは、県に対して、食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。次の中から当てはまるものを最大3つまで選んでください。

(n = 632)



○県に望む食の安全対策としては、「輸入食品の安全性の確保」(49.1%)が最も高く、次いで「食品の検査強化」(37.2%)、「農薬の使用や残留に関する農作物の安全性の確保」(35.9%)、の順であった。

○「その他」として、次のような意見が挙げられた。

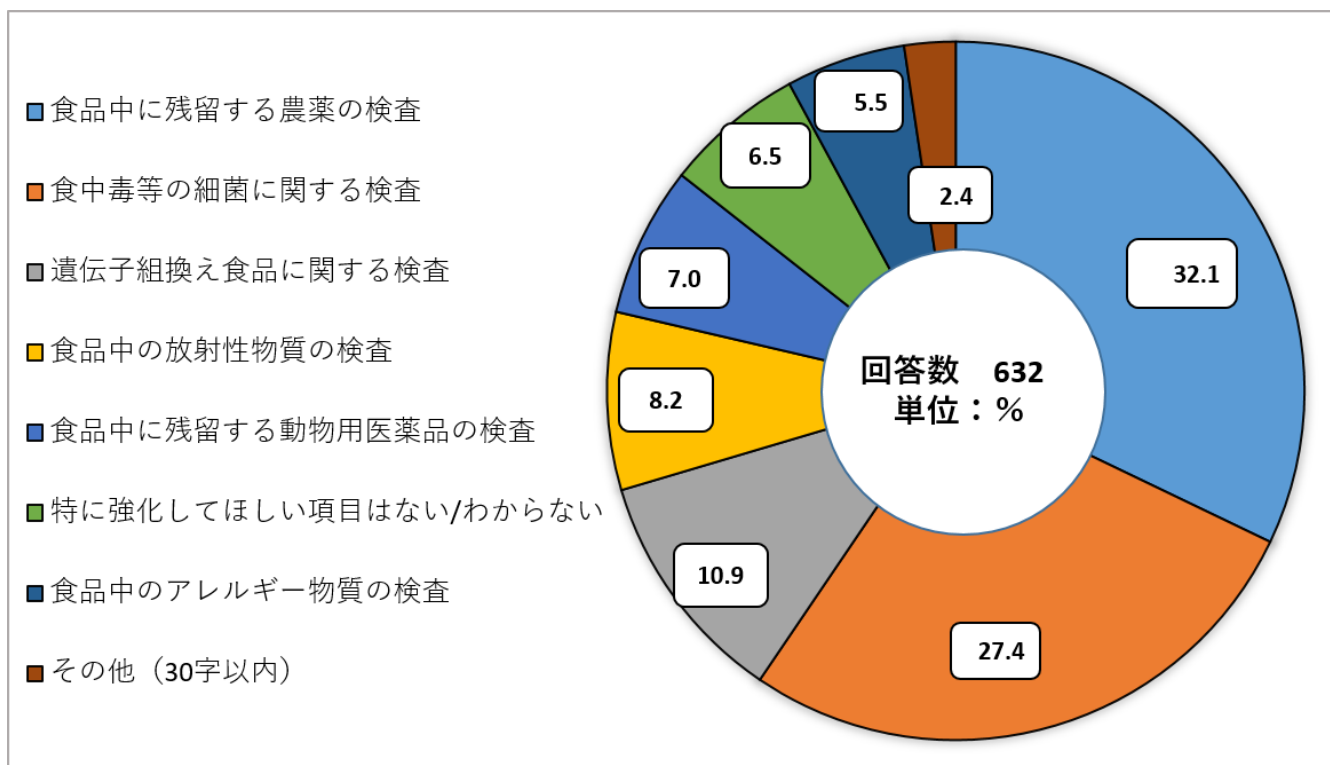
- ・ゲノム編集食品に関する情報発信
- ・偽装表示への厳罰化

など、16件のご意見がありました。

【問4】

本県では、食品衛生監視指導計画に基づき、食品の抜き取り検査を年間 1,000 検体実施しております。あなたは県に対して、食品に関するどのような検査項目を特に強化してほしいですか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。

(n = 632)



○県に望む食の安全対策の検査強化の項目としては、「食品中に残留する農薬の検査」(32.1%)が最も高く、次いで、「食中毒等の細菌に関する検査」(27.4%)、「遺伝子組換え食品に関する検査」(10.9%)の順となった。

(※3) 食品衛生監視指導計画について、詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

茨城県 HP :

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/seiei/eisei/syokuhin_kanshishidou.html

【問5】

「食の安全について」のご意見等がございましたら、ご自由に記入してください。(200字以内)

- ・ 輸入の物はきちんと検査して安全なものを提供してほしい。
- ・ 無駄に多くの検査をしなくても良いが、安全が確認できる量はしてほしい。教育広報活動が重要。
- ・ 食品偽装はわからないからこそ、もっときちんと検査してほしい。
- ・ 遺伝子組換えをしているのか、していないのか、農薬はどの程度使っているのか、知る機会を設けることで、消費者も主体的に選択できると思う。
- ・ 食品の安全について問い合わせや検査結果を県民に分かるように周知してほしい。
- ・ 一般的に食品添加物は良くないと言われているが、どの程度摂取すると体に影響があるのか等、分からないことが多い。
- ・ 原発施設を持つ県として、放射性物質の検査は定期的に行ってほしい。
- ・ 県民目線で関心を持ち続けるよう啓発することが重要。なぜ安全なのか、どうなると不適なのか発信力を高めてほしい。

など、245件のご意見がありました。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・ 本アンケートの結果を基に、県民が不安を感じている関心事や検査項目について、アクションプランや監視指導計画等の食品の安全性に関する県の施策の検討の際の参考とする。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年7月24日（月）から8月6日（日）23時59分 まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：981名（県内在住者のみ）

回収率：64.4%（632名）

回答者の属性：以下の通り。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		632	100.0
地域別	県北	55	8.7
	県央	234	37.0
	鹿行	40	6.3
	県南	242	38.3
	県西	61	9.7
性別	男性	281	44.5
	女性	351	55.5
年齢別	16～19歳	3	0.5
	20～29歳	31	4.9
	30～39歳	76	12.0
	40～49歳	161	25.5
	50～59歳	176	27.8
	60～69歳	112	17.7
	70歳以上	73	11.6
職業別	自営業	53	8.4
	会社員	220	34.8
	団体職員	26	4.1
	公務員	20	3.2
	主婦・主夫	151	23.9
	学生	10	1.6
	無職	82	13.0
	その他	70	11.1

(2) 担当課

茨城県保健医療部生活衛生課食の安全対策室

電話：029-301-3420 E-mail：seiei4@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。